

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第16号

ナス、イチゴの灰色かび病の発生について

昨年末以降、曇天寡日照の天候が続いている影響で、ハウス内が過湿となり、ナス、イチゴで灰色かび病が多発しています。

罹病果や罹病葉を早めに除去し、換気及び防除を心がけ、発生の拡大防止に努めましょう。

1 対象作物名：ナス、イチゴ

2 病虫害名：灰色かび病

3 発生状況

2月5半月調査の結果、ナスでの発生量は平年・前年よりも多かった。また、イチゴでも、発病果率は平年よりも低く前年並であったが、発生ほ場率は平年・前年よりも高かった。

(1) ナス

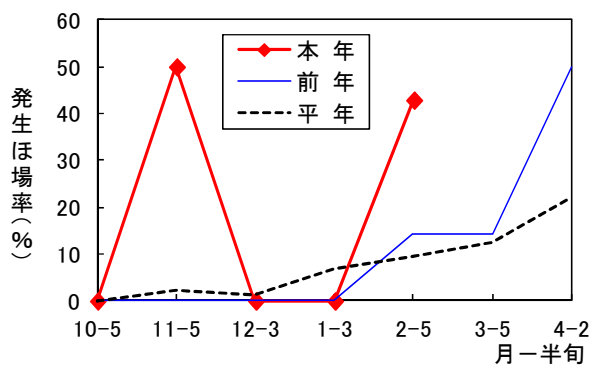
発病果率 1.3% (平年 0.16%、前年 0.14%)

発生ほ場率 42.9% (平年 9.5%、前年 14.3%)

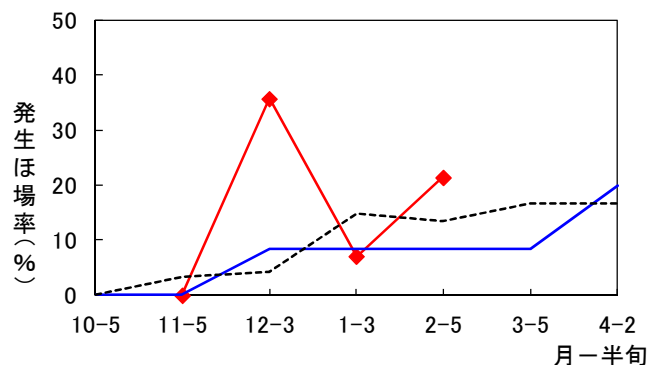
(2) イチゴ

発病果率 0.04% (平年 0.1%、前年 0.02%)

発生ほ場率 21.4% (平年 13.4%、前年 8.3%)



冬春ナスにおける灰色かび病の発生推移



冬春イチゴにおける灰色かび病の発生推移

4 防除上注意すべき事項

ア ハウス内の多湿により発病が助長されるので、こまめに通風・換気を行う。

イ 罹病果や罹病葉の早期発見に努め、見つけ次第速やかに取り除く。

ウ イチゴの収穫後の果梗は、放置すると感染源となりやすいので、早めに取り除く。

エ 病勢が進展すると防除が困難となるため、初期防除を徹底する。

オ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



葉



果実

ナスの病徴



がく



果実

イチゴの病徴